

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名称	茅野市博物館協議会		
開催日時	令和元年6月26日（水） 午後1時27分～2時33分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 閲覧室		
出席者	沖野外輝夫委員長、小口隆秀副委員長、片桐広文委員、武居三男委員、山田勝俊委員、伊藤彰敏委員、保科正之委員、小平一次委員、大勝弘子委員、永尾房江委員 山田利幸教育長、平出信次生涯学習部長、両角勝元文化財課長、守矢昌文尖石縄文考古館長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、中澤正明神長官守矢史料館長、山科 哲考古館係長、両角英彦博物館係長、柳川英司古文書担当、両角 清博物館係主査、渡辺真由子博物館係主査		
欠席者	市川純章委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
山田教育長	<p>o 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員の任命 3 教育長あいさつ 4 委員及び職員の自己紹介 5 茅野市博物館協議会設置条例について 6 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 正副委員長の互選について (2) 審議会等の会議の公開について (3) 各館 令和元年度事業計画について (4) その他 7 閉会 <p>o 会議録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会（平出生涯学習部長） 2 委員の任命 山田教育長から各委員に任命書が渡された。 3 教育長あいさつ 今日の主な協議事項は、今年度の事業計画である。市民とともにつくる3つの博物館をよりすばらしいものにしていくよう、ご意見をいただきたい。 昨年度のそれぞれの博物館の様子では、尖石縄文考古館は、博物館であると同時に日本の縄文学の総本山的な位置を占め出したと思う。そして、学校との連携が深まり、縄文科学習も進んできた。 総合博物館は、30周年を迎えた。市民研究員では、第1期の26人、第2期の30人に認定書が渡された。市民研究員が博物館をともに作り上げていくということは評価される。モバイルプラネタリウムの視聴者も 		

	<p>増えている。</p> <p>史料館は、入館者が1万人を超えた。今までで一番多かった。史料館の横の守矢邸は、歴史的文化的な価値がある。庭園も価値がある。その整備計画を今年度から開始する。</p> <p>5月31日に地方分権一括法が成立した。公立の社会教育施設、博物館、図書館、公民館等について、地方公共団体の判断により、教育委員会から首長部局に移管することが可能となった。観光、地域振興、まちづくりの部局に移行できることになった。</p> <p>大事にしなければならないことは、博物館なら、資料を収集、保存、研究、展示している。その中で、地域の文化を守り向上させていく。茅野市の場合は、そこに市民がパートナーシップで関わっていただいている。</p> <p>そう考えるとき、首長部局に移管というのも一つの考え方だが、教育委員会の所管にして文化を守っていくという考えである。後ほど、平出部長から説明する。</p> <p>皆さんのお力でさらにより博物館にしていきたいので、よろしく願いしたい。</p> <p>4 委員及び職員の自己紹介</p> <p>5 茅野市博物館協議会設置条例について (両角博物館係長が資料に基づき博物館協議会の役割について説明)</p> <p>6 協議事項</p> <p>(1) 正副委員長の互選について 委員の互選により、委員長に沖野委員、副委員長に小口委員を選出した。委員長及び副委員長からあいさつがされた。</p> <p>(2) 審議会等の会議の公開について (両角博物館係長が資料に基づき説明)</p> <p>本日の会議は、公開とすることに決まった。会議録における委員の発言者名は、「委員」と記載することに決まった。</p> <p>(3) 各館 令和元年度事業計画について</p> <p>それでは、各館 令和元年度事業計画について説明してください。 最初に、尖石縄文考古館の説明をお願いします。</p> <p>(守矢尖石縄文考古館長が資料に基づき説明)</p>
委員長	<p>質問があれば、お願いします。</p>
委員長	<p>いろいろな催し物があるが、対象は市民ということか。実績は、どうか。</p>
委員	<p>いろいろな催し物があるが、対象は市民ということか。実績は、どうか。</p>

守矢尖石縄文考古館長	市民以外の方も参加できる。例えば、縄文ゼミナールでは、幅広い考古学のファンの方に参加いただいている。
委員	<p>縄文教室の第6回は、黒曜石に関するものである。国道299号から30分くらい入った所に冷山があり、黒曜石が露出している。和田峠ほど純度は高くないといわれているが、あれで矢じりを作ったのかと勉強になる。黒曜石は、縄文の文化を理解し、観光客を呼ぶという面では魅力になると思う。</p> <p>問題は、国有林なので、その中を通るとのことと、駐車場を確保できるかということ。直ちにに取り組むというわけにいかないと思うが、そういう方向に向けた準備が大事ではないかと思う。</p> <p>今は、現地に行けば黒曜石を採掘できるので、囲むなどして、見れるようにすれば、土器だけでなく縄文文化のPRになると思う。課題として提起する。</p>
守矢尖石縄文考古館長	大変珍しく貴重なものだと考えるので、何かの形で公開、保存したらということで南信森林管理署と協議を重ねた経緯があるが、国有林内ということで難しい。
委員長	<p>次に、八ヶ岳総合博物館の説明をお願いします。</p> <p>(両角八ヶ岳総合博物館長が資料に基づき説明)</p>
委員長	質問があれば、お願いします。
委員	新しく整備した自然観察路に関しては、何か計画しているか。
両角八ヶ岳総合博物館長	もうすぐウバユリがもうすぐ咲きそうである。木が高く見えない所などがあるので、さらに整備をしていきたい。
委員	<p>特別展で、地域に貢献した人で、坂本養川を取り上げていただき、いいことだと思う。</p> <p>名前は知っているが、どんな人か知られていない面があるので、宣伝にも力を入れてほしい。</p>
委員	坂本養川は、夜、提灯を使い水平を測り開削したと聞く。坂本養川の像の近くには青少年自然の森がある。そこに、水路を切り開いた様子が分かるものがあるとよいと思う。
柳川古文書担当	博物館に展示はある。青少年自然の森にという計画はない。
委員	市民研究員の応募は、あるか。

両角八ヶ岳総合博物館長	軌道に乗ってきている。声をかけたり、たまたま博物館に来て、参加したいという方もある。
委員	以前、イベントの告知は広報ちのやホームページで行っていると聞いた。私は、ポスターを見てイベントを知って、博物館に出かけたことがある。市外の人に対する広報として、ポスターを活用されたい。
委員	別荘が多いが、そこに来る人への広報はどうしているか。
両角博物館係長	別荘所有者に向け、夏のおたより号という広報を発行している。管理事務所に届け、別荘所有者に届くようにしている。
委員長	続いて、神長官守矢史料館の説明をお願いします。 (中澤神長官守矢史料館長が資料に基づき説明) 質問があれば、お願いします。
委員	ギャラリートークに参加した。最初は、古文書の字が読めなかったが、説明を聞き、内容が分かるようになった。広報に工夫をすると、多くの人に来てもらえると思う。 それと、藤森建築との関係は。
柳川古文書担当	所有者が藤森照信さんなので、こちらからは何もできないが、道案内はしている。
委員	来館者が多くなっているようだが、困るようなことや新たな計画はあるか。リピーターは。
中澤神長官守矢史料館長	いろいろな思いの方の来館が多くなっている。リピーターも多くなってきた。
委員	前宮のあたりが整備され、来館者につながっている。 (4) その他
平出生涯学習部長	先ほど、教育長から、第9次地方分権一括法について話したが、若干説明したい。 国から、教育委員会に対し、社会教育施設を市長部局に移管をとという動きが出ている。教育委員会は、政治的中立、表現の自由を守るという中で市長部局と分離され、教育を行っている。 地方が財政的に苦しくなっている中で、もっと自由度を高めて観光や産業に社会教育施設を取り入れたいという思いがある。 茅野市では、博物館は学習活動の場、研究の場、保管展示の場というこ

委員長	<p>とを重要視していきたい。教育委員会所管でなくなるにより、学校との連携も薄くなってしまふ。他の教育機関との連携も図りにくくなることが予想される。</p> <p>学芸員が専門的な調査研究を行いたくても、観光行政に偏っていくと、娯楽志向の強いテーマパークのようなものになってしまうということも考えられる。博物館の使命というものが薄れていって、お客さんだけ集めればいい、入場料だけ払ってもらえればいいということになってしまうことを懸念する。</p> <p>茅野市では、教育委員会の施設として現状維持していく姿勢である。観光などと連携していった方がいいという面もあると思う。そういうことも研究し、当面は、現状のままで教育委員会の施設として運営していきたいと考えていることをご理解いただきたい。</p> <p>このことで、何かご意見ご質問はありますか。 それでは、協議事項は、以上とします。</p> <p>7 閉会（両角文化財課長）</p>
-----	--